

あとがき

本エッセイ集は、五年前の二〇〇六年五月、『演歌つれづれ』の名のもとに、一度「武蔵野書房」から世に出ている。この度、それが絶版となったのを汐に、『歌は心の帰り船』として、「書肆彩光」から再び船出をさせたものである。

時は移り、題は変われど、あとがきに書きたい念いは、変わることなく、むしろいつそつ、愛おしく強まっている。前書のあとがきを再び録して、此度のそれ（あとがき）とする次第である。

*

本エッセイは、平成五年から平成十四年、私が発行する同人誌『琅』の第二号から第十一号にかけて、九年・十号に亘り、連綿と書き綴ってきたものである。それは、第十四話「閑話休題」でも触れたように、まこと美しい贈り物を数々もらった縁えんじある人々に時を還して遡る、歌つれづれの想い出行脚である。

しかし私は、ここに、ひとり自分史を書き残そうとしたつもりは、まったくない。確かに、少年期から壮年期へと、時代を追って、話を進め、折々に偲ばれるあの人かの人との交わり

の中で、「私」自身のことを描いてきたが、所詮、自分史などというものは、余程のものでない限り、関係者以外に何の面白がるうはずもない。私は、語りはじめていくばくもなく、私から「私」を放ち、その「私」の人生の哀歡をたて糸に、名歌・名曲をよこ糸に、互いの琴線を紡ぎ合うことに熱中し、誰に読まそうとて、まるで物書き気分で綴りはじめた。いわば、一話一話、「私」を主人公とする私小説を編むことに没入していったのである。

語り終えて、ふと振り返れば、その一話一話に、銘じて忘れがたき人々に対する、今さらながらの詫び状・礼状・恋文がちりばめられていた。思えば、至福の九年・十号。私は、「歌は心の帰り船」として、誰に気兼ねすることなく、自在に、あの人かの人と共にたゆたい、あの時かの時をより鮮やかに再現していた。そこから生み落とされた本書『演歌つれづれ』、これは私にとって、まさにまさしく、わが愛しの分身である。本書が、いくたりかでも同好の乗船者を得て、ここ彼処の港に碇を下ろし、懐かしい歌の数々をともども口ずさんで頂ければ、と願う次第である。

二〇二一年十月 清秋の日

宗内 敦

著者紹介

宗内 敦 (むねうち あつし)

【経歴】

1962年 東京教育大学教育学部心理学科卒業
東京家庭裁判所調査官，都留文科大学教授，明星大学教授，
都留文科大学名誉教授

【著書】

* 専門書

『発達臨床心理学』『統計解析プログラム・自在』『カラー・ピラミッド性格検査法』『ケースワークと権威』(訳)『精神衛生』『先生，出番です！』『カラー・ピラミッド・テスト入門』ほか

* エッセイ集

『十三分の一』『演歌つれづれ』『二言、三言、世迷い言』

彩光文庫 歌は心の帰り船

2011年12月1日 初版第1刷発行

著者 宗内 敦

発行所 書肆彩光

(193-0821) 東京都八王子市市川町 128-202

電話: 042-651-1227

email: shoshisaikou@home.nifty.jp

URL: <http://shoshisaikou.art.coccan.jp/>

振込口座: 10170-51597961

印刷・製本 ポプルス

JASRAC 出 1114209-101

ISBN978-4-9905678-2-8 C0195¥600E